

1. 由緒ある神社といわれているが、「郷社」という名付けのあった他に何があるのか。

正一位赤城大明神の宗源宣旨を受けている。

そうげんせんじ
宗源宣旨：神社に対して高い神格を示す称号や神階を授与、承認する文書

2. 何時から大しめ縄行事が始まったのか。大きさの変遷はあったのか。旧しめ縄の処分方法は？

- ・大正9年編纂の「流山町誌」にはおびしゃ行事は記載されているが、しめ縄行事はない。大しめ縄行事は昭和になってから始まったと推測される。
- ・旧しめ縄の処分方法は、のこぎりで1m位に切断して燃えるゴミとして処分されている。

3. 一茶の句碑に「越後節蔵に聞こえて・・・」とあるが、この蔵は酒造と思われる。他方、この時代にすでにみりんは製造されていたのか。また「越後節」とはどういう唄なのか。

- ・一茶が来た頃は、酒が製造されていた。
- 越後節は越後杜氏が歌っていた酒造り唄と考えられる。
- 5代目秋元三左衛門の富の源泉は酒造販売によるものである。
- みりんは試醸の段階と思われる。

4. 葵の紋がある理由

葵の紋については説明をしない。聞かれたらわからないと言う。

5. 創建時期はいつか。

1620年の棟札があるが、流山村が江戸時代初期に成立したことから、江戸時代のはじめに創建されたと考えるのが一般的である。

6. 主祭神大己貴命と赤城神社との位置付け。

江戸時代の祭神は、赤城大明神。

明治新政府は皇孫神の天照大神を頂点とする国家神道を推進し、各神社に天皇家に繋がる神話上の神々を主祭神とするよう命じた。この際に赤城神社は主祭神を大己貴命として神社庁に届け出た。

明治41年に宮下にあった羽黒神社を合祀したので、祭神の豊受姫命も赤城神社の祭神となった。

7. 上州赤城山の笹と同じ笹と説明しているが裏付けは。

説明しない。

8. 参道の階段38段はいつ頃、どのように造られたものか。

積極的に説明する事柄ではない。

9. 大工棟梁植原藤七、彫物棟梁高松藤吉の技術的なこと流派等どのくらいの立場な人なのか。

質問者が調査して定例会で発表して欲しい。

10. 流山地名伝説は、赤城山の一角が崩れて流れ着いたという説明で統一したほうが良いのではないか。

伝説であり、説明者に任せる。

- 1 1. 流山地名伝説は何時頃から言われ始めたのか。「赤城祠碑」の文には文化11年（1814）のものがあるがもっと以前か。

江戸初期頃と考える。

- 1 2. 郷社赤城神社・香取神社に神職が駐在していないのはなぜか。

村の鎮守の社のほとんどは神職がいなかった。寺院と違い祠や社を建てれば神職がいなくても鎮守とすることができた。大きな社では神職を置くことができた。また別当寺があったところは社僧が法楽をあげた。市内の神社では赤城神社、茂侶神社、香取神社（北小屋、木）、愛宕神社などに別当寺があった。明治以降は別当寺が廃され、小さな神社にも神職がいたが、戦後はその役目がうすれ、多くの神社では無神職になった。

- 1 3. 赤城山は「あかぎやま」、「あかぎさん」呼び名を統一したほうが良い。

群馬県や国土地理院では「あかぎやま」としている。

群馬県では「あかぎやま」、流山では「あかぎさん」と呼ぶことに統一する。

- 1 4. 赤城山は建長年間に噴火したのだろうか。吾妻鏡の記述は山火事を意味する可能性が高いとする説がある。

1万4千年前に噴火した記録はあるが、それ以降噴火した記録がない

10項と同じ

- 1 5. 大しめ縄行事に参加する人数は、約300人と説明したり、約400人と説明している。会としてどちらか統一したほうが良いと思う。

社殿および境内清掃を含め約300人で統一する。

- 1 6. 出雲大社のしめ縄の長さ重量（出雲大社ホームページより）（参考）

拝殿：長さ 6.5m、重量1トン

神楽殿：長さ13.6m 重量5.2トン

1. 猿田彦大神立像とはどういう神様か。

日本神話に登場する神様で、天孫降臨の際に道案内をした神様である。江戸時代の民間信仰で、庚申信仰や道祖神などとも結びついた。

流山寺の猿田彦像は庚申塔である。因みに隣の大黒天像は甲子講の対象神である。

長流寺

1. 境内には1607年の馬頭観音が安置してあるが、お寺の創建が1607年で同年代である。

この馬頭観音は元々はどこにあったのか

質問者が調査し、定例会で発表して欲しい。

陸軍糧秣廠跡

1. B29による爆弾が落ちなかったのは干草稻荷（防火の神様）のお蔭と説明している人がいるが、実際は現在のイトーヨーカドー内に落ちて直径5m、深さ3mの穴があくという被害があった。

この干草稻荷は飼料となるワラが自然発火しないように防火の神様として祀っていた。戦時中はB29による爆弾が落ちて倉庫や事務所に被害があったが死者は出なかった。

爆弾が落ちなかったという説明は間違いである。

事実説明（説明は各個人による）

昭和20年2月24日午後8時30分頃、B29が東京から鹿島灘方面へ飛来し、1発目は流山寺前で爆発し、死亡者11名が出た。帝国清酒工場内、糧秣廠内、西平井と芝崎の田んぼに1発ずつ爆発した。糧秣廠内では、着弾した空き地には、すり鉢型の直径5m、深さ3mの大穴があいた。周辺の倉庫・事務所等の屋根や壁は被害を受けた。軽傷者1名を出すのみであった

「ふるさと流山のあゆみ」P223、 「みりんの香る街・流山」P192～193